

感染対策への取り組みについて
 現在、新型コロナウイルスへの感染を予防するため、感染対策への取り組みが注目されています。感染対策への取り組みは、医療機関としては当たり前に取り組まねばならない課題であり、以前より、患者さんと職員を守るため、手洗い、手指消毒の実施等を徹底してきました。



感染対策室 桑原主任

感染症に備える

コロナ禍の今、感染対策室桑原看護主任に聞く

また、平成28年より、「感染管理加算I」を取得しており、一層の感染対策を強化する。院内感染対策チームによる週1回以上の巡回チェック、2回の全職員を対象とした感染対策研修を開催しています。さらに、年1回は他の医療機関による相互チェックを行うことと、当院の感染対策を、第三者的視点で評価してもらっています。

新型コロナウイルスへの対応について
 新型コロナウイルスへの対応として、当院でも様々な取り組みを行っています。発熱の患者さんを確認するたため、玄関前での検温と、新型コロナウイルスに対する問診の実施。熱のある患者さんの診察時には、玄関とは別の入り口から専用の診察室で対応するなど、他の患者さんへの感染リスクを減らすための取り組みを行っています。当院では現在、新型コロナウイルス



採血時も対策を徹底

日常での新型コロナウイルス感染予防について
 日常での感染予防については、以前から言われているように、手洗いと咳エチケットの徹底です。これは新型コロナウイルスだけでなく、インフルエンザ等の他の感染症を防ぐためにも必要です。新型コロナウイルスが他の感染症と違って厄介なことは、症状がなくても他の人に感染させるおそれがあることです。このため、知らないうちに、飛沫としてウイルスを拡散させる場合がありますので、人の集まる場所ではマスクの着用をお願いしています。



熱のある方専用の入り口



感染対策チーム (Infection Control Team)

医師、看護師、薬剤師、検査技師等の様々な職種からなるチームを編成し、院内の感染対策が適切に行われているかを週1回、チェックしています。また、月1回、奈良県立医科大学感染症センターの笠原 敬教授にも指導いただいています。

◀ 感染対策チームのメンバー 後列中央が笠原教授



地域医療の拠点として 宇陀市立病院



宇 陀地域の中心医療機関である宇陀市立病院。現在、宇陀市が進めている「地域包括ケアシステム」においても、その拠点病院として大きな役割を担っています。高齢化が進み、医療の重要性が高まるなか、医療を安全で適切に行うため、医師による診断だけでなく、診療をサポートする様々な職種の職員が日々、現場での努力を重ねています。今回は、新型コロナウイルスを含めた感染症への対策の状況と、医療を支える職員の皆さんを特集します。

問 宇陀市立病院 (☎ 82・0381)

臨床工学技士

医療機器の操作や安全管理担当



医療事務

カルテ管理や医療費の請求を担当



診療放射線技師

放射線を使用する検査やMRIを担当



社会福祉士

退院後の生活等の相談に応じる

理学療法士

基本動作のリハビリテーションを行う

薬剤師

医薬品の調剤や服薬指導を担当

臨床検査技師

病理、生体、生理検査を担当

病院では、医師、看護師だけでなく様々な職種のメディカルスタッフが働いています。

こうした異なる職種のメディカルスタッフが連携・協働し、それぞれの専門スキルを発揮することで、入院中や外来通院中の患者の生活の質（QOL）の維持・向上、患者さんの人生観を尊重した療養の実現をサポートしています。そして直接患者さんに関わる仕事だけでなく、病院は様々な職種の職員によって運営されています。

チームで支える

チーム医療により、1人の患者さんに複数のメディカルスタッフ（医療専門職）が連携して、治療やケアに当たっています。

視能訓練士

眼科の検査で医師をサポート



経理、給与担当

財務、職員の福利厚生等を担う



看護助手

医師や看護師の業務をサポート



情報システム担当

電子カルテ等、院内の情報システム管理



設備、購買担当

設備修理から契約事務までこなす



保育士

子育て支援のため、保育園を設置



管理栄養士

食事の面で治療をサポート



言語聴覚士

言語障害や嚥下訓練等をサポート



